

## 巻 頭 言

あきた数学教育学会

会長 田 仲 誠 祐

あきた数学教育学会誌第2号の発刊に当たり、特別寄稿いただいた湊三郎様、秋田県立秋田南高等学校中等部の生徒の皆様、優れた研究論文を投稿くださった会員の皆様に心より感謝申し上げます。

この3月、杜威先生が秋田大学教育文化学部を定年退官されました。21年間にわたって本学の教員養成に携わってこられましたので、現在の秋田県の算数・数学教育を支える人材の大多数が杜先生門下といっても過言ではありません。また、日本数学教育学会の役員、東北数学教育学会、秋田県算数・数学教育研究会の会長等を長年にわたって務められ、我が国の算数・数学教育界の中核として活躍されてきました。

私が初めて杜先生を知ったのは、秋田で開催された日本数学教育学会の論文発表会でした。論文発表会に数学教育界の大物研究者が一堂に会するのはもちろんですが、ちょうどあの頃は活きのよい若手研究者（現在は皆さん大物として活躍中）が出てきた頃で、躍動感を感じる会でした。飯島（愛知教育大）、磯田（筑波大）、中村（東京学芸大）等、大学時代の同級生が秋田に来るといので参加した私でしたが、学会のアカデミックな雰囲気カルチャーショックを受け数学教育学と出会い直しをする大きな節目になりました。多くの著名な先生が発表する中で、筑波大学の博士課程に在籍中の杜先生の発表会場には特に聴衆が多かったと記憶しております。文字式の学習への研究の切り込みが鋭かったのに加え、学会の重鎮とも落ち着いて議論する杜先生の堂々とした姿が印象的でした。

二度目に杜先生とお会いしたのが、1999年に杜先生が北京師範大学から秋田大学に赴任した年です。湊先生の後任として杜先生が赴任したことに、私は、自分自身の人を見る目にお墨付きをいただいたようで誇らしく思ったのを覚えております。ちょうど第81回全国算数・数学教育研究（秋田）大会の開催の年であり、私は事務局長として副実行委員長の杜先生と共に仕事をさせていただく中で、先生の人間の深さに改めて魅了されました。秋田大会は、理念、内容、運営とも、多くの人から賞賛され大成功でした。成功の最大の要因は、学校種間、地域間の壁を超えた教員の協力体制の素晴らしさにあるのですが、それを可能にしていたのが核となる湊・杜両先生の存在でした。この全県的な協力体制が、全国的にも例を見ないあきた算数・数学フェスティバルの実施、さらには全国学力・学習状況調査における良好な結果につながっていると確信しております。

湊・杜両先生の功績により理論的、実践的に国際的にも注目されるようになった秋田の算数・数学教育を引き継ぐ私たちの責任は重大です。あきた数学教育学会は創立して日が浅いため、今は足腰を強くすることが急務です。本学会は、数学教育研究に関心をもつ人、草の根数学文化の創造に貢献したいと考える人に開かれた組織といえます。秋田県外在住の人、教員を退職した教員、新進気鋭の志のある教員に呼びかけ仲間をさらに増やし、理論研究、実践、地域貢献等を進め、発信力のある学会に成長していかなくてはなりません。本学会の名誉会長である杜先生には、今後も広く高い見地から指導をお願いします。日本と中国間で一層意欲的に国際的な仕事をされる杜先生の姿に学び、私たちも力を合わせ、数学教育の未来を拓く学会として基盤を強固にしていきたいと思います。